

ちえすなつとミニレター

IGAGURI

イ ガ グ リ

Vol. ①
2021.3.1



IGAGURI はじめます

あっという間に1年が経ちました。オープン後すぐ、緊急事態宣言が発令し、日に日に静かになる店内。焦る気持ちと不安な日々が続きました。そんな中でもお店に足を運んでくださり楽しそうに本を選んでいる方や、おもちゃで一生懸命に遊んでいる子ども達を見ていると、お店が今、この場所にある意味がきつとあるのだと思えることができました。そんな皆様と、いろいろなかたちでお店に関わって頂いている方々のおかげで、1周年を迎える事ができました。本当にありがとうございます。

さて、この「IGAGURI」という冊子、お店の主役は絵本ですが「IGAGURI」は私たちが主となって作ってあげたいと思っています。なので、私たちがおもしろいと思った事やお店に立っている間に思う事などをまずは発信していきます。近所のお客さんが月1回この冊子を楽しみに来てくれるようになったら嬉しいなと思います。慣れない阪急電車にのって来てくれるお客さんが帰りの車内でゆったり読み込んでいたらちょうど梅田、くらいの読み物がいいなと思います。めざすは「読みたくなる冊子」。毎月のはじめに店内にてご提供します。どうぞよろしくお願致します。



丹治悠 Tanji Yu

コーヒーとSNSを担当。
元アウトドアショップ店員という経験をいかし、お店の隅にある山の本コーナーを全力で作っています。



丹治未来 Tanji Miku

絵本とHPとイラストを担当。
元チルドレンズミュージアムの職員という経験をいかし、こどもスペースを作り込んでいます。

ちえすなつのはなし その1

「ちえすなつ」って？

「chestnut(ちえすなつ)」は英語で「栗」という意味。子どもが言いたくなる、子どもが言うところとちょっとかわいい響にひかれて決定しました。

*「マロン」はフランス語です。

クイズ" あったらしいな

このシリーズのこんなタイトルがあったら読んでみたいという空想の絵本が1冊まぎれています。どれでしょうか？

- ① わさびのびーやん
- ② うどんのうーやん
- ③ こんぶのぶーさん

→答えは最後のページ

子どもに初めて絵本を読むお父さん方の心境ってどんなものなのでしょうか。

僕は「恥ずかしい」が一番でした。

奥さんは絵本が大好きなので、何の躊躇もなく楽しみに息子に読みます。

ある日、「父ちゃん絵本読んで！」と息子に言われてしまいます。イヤです。

でも読むしかありません。0歳、1歳向けの絵本では圧倒的にやさしい言葉が連なります。そんな言葉の中でも「ぼにょ」とか「あば」のような擬音で来られてしまうと、その言葉を発する事の恥ずかしさが先に立ち、棒読みになってしまったりポンポンと小声になったりします。それに加え、僕が読んでいるのを壁の向こうにいる奥さんがおそらく聞いているであろうと思うと、ますます声はちいさくなるばかりです。当然、そんな読み方で息子が納得する訳もなく、読んでいる途中の絵本をかつさらうとそのまま奥さんの元へダッシュする、なんてことが何回もありました。それでも諦めずに「父ちゃん絵本読んで！」と来てくれます。その期待に答えたいのですが、やはり恥ずかしいのです。

ある時、絶好のチャンスが訪れます。奥さんが出掛けていたので息子と二人きりになりました。この機を逃す手はないです。ここは恥ずかしさを捨て、全力で絵本を読んでみようと思いました。今でも忘れません。「おっとせいおんど」と言う絵本でした。絵本のタイトル通り、お話自体が音頭です。僕はもちろんその音頭を知らないので自分なりに節を付けてやけくそで歌ってみました。

とても恥ずかしかったです。

全力で読み終えた後、息子が言いました「父ちゃんもう一回読んで」と。

おそらく息子はおもしろいと思ってくれたのでしょう。嬉しい反面、また歌うのは恥ずかしいなあとやはり思っていました。

それからというもの読む冊数もだんだんと増えて行きます。永遠に続く「もう一冊」。その甲斐あってか今では絵本を読んでいる最中に息子が寝てしまうなんてこともあります。そんな時は心の中で思います。「勝ったな」と。

今でも僕は絵本を読むのが下手くそです。でも読むのが楽しくなりました。

そう言う事かもしれません。





「ひらがなの恐怖」 丹治未来

ついにその日が来た。4才の息子がひらがなに興味を持つようになったのです。「これなに?」「い」「これは?」「ぬ」「・・・い・ぬ・・・」。真剣な面持ちで文字を読む息子。あまりにもうれしそうに笑うので、絵本を読む時間もそろそろ卒業かというさみしい気持ちも吹き飛んでしまいます。

子どもにとって、大人に絵本を読んでもらうということは、大人の愛情をたっぷり感じ、心動く物語の世界を共に体験するということ。絵本を読んだ時間は、その子が大きくなった時に自分を肯定する支えの1つになると私は思っています。

だからいつか「お母さんもう読まなくていいよ」という日が自然と来るまで、ひらがなを手取り足取り教えたり、無理に一人で読ませないでおこうと。

ひらがなに興味をもち、その日は来そうではあるのだけど、まだ読んでもらうことが大好きな息子。いまだに赤ちゃん絵本も大好きで、そういった本は文字が大きく短いかから、時々横入りして自分で読み始めます。赤ちゃんのころからずっと視界の中にあっただけの絵本の文字が、急に意味のあるものとして見えるようになったというのは、考えてみればすごいこと。

そうやって自分の周りの世界がどんどん変化していくんだなあ。

あとがき

この様な冊子を作るのは、以前勤めていた職場で広報もしていた時以来です。

こっちを修正すればあっちも修正したくなって、なかなか完成しないのは今も同じでした。

それが楽しいんですけどね。

このIGAGURIを楽しんで頂けたら幸いです。



月1の発行となると、第1回目の印刷を発注する時すでに2回目はほぼできあがっているというスピード感。なかなかのスリル。コロナで気持ちの面でもいろいろ停滞しているので、こうやって締め切りに向かって追い詰められていく感覚は、日々の生活を前向きにする上でも必要なものかもしれないなーと、改めて感じます。



この冊子は、

「古絵本とコーヒーのお店 ちえすなつと」が、絵本のことやお店のこと、はたまた日常のささいなことまでを、手紙をだすように綴った月刊誌です。

ちえすなつとミニレター
IGAGURI 第1号

発行者 ちえすなつと

発行日 2021年3月1日

古絵本とコーヒーのお店 ちえすなつと

OPEN 10:30-18:30

CLOSE 月・火 *祝日はOPEN

〒561-0883 大阪府豊中市岡町南 1-6-13-101

阪急宝塚線「岡町駅」徒歩5分

www.chestnut2020.com

